

令和5年度 桜小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画，網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

【自ら考え、共に学び、心豊かにたくましく生きる児童を育成する。】

- | | |
|----------------------|-----------------------|
| 1 たくましい子（たくましい体力と活力） | 3 働く子（勤労意欲と実行力） |
| 2 考える子（個性と創造性の伸長） | 4 思いやりのある子（豊かな心情と協調心） |

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

人間尊重と共生・協同を学校経営の基盤とし、桜小学校の歴史と伝統を継承し、教職員相互の信頼と協調のもとで、児童一人一人のもつよさや可能性を認め伸ばし、未来を拓く、たくましい人間の育成に努める。

～「一人一人のよりよい未来のために、子どもたちの今に、全力でかかわる『チーム桜』～

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 深い児童理解のもと、豊かな心を醸成する教育活動を積極的に推進するとともに、心豊かでたくましく生きる児童を育成する学校づくりに努める。
- (2) 一人一人の児童の個性・能力を把握し、基礎・基本の確実な定着及び「分かる授業」の展開を図るとともに、確かな学力の向上を目指す。
- (3) 児童の健やかな成長のため、児童が本来もっている力を発揮できるように、一人一人に寄り添いながら温かくきめ細かな指導を行う特別支援教育の推進に努める。
- (4) 教職員としての使命と責務を自覚し、専門職として日々研鑽に努め、個々の指導力及び資質の向上を図るとともに、校内業務の適正化（特に、効率化）を推進することにより、教職員一人一人が心身ともに健康な状態で児童と向き合う時間を十分に確保し、活力ある学校づくりに努める。
- (5) 学校・家庭・地域社会との連携を密にして、地域の教育力を活用しながら、地域とともにある学校づくりと小中一貫教育の推進に努める。

〔陽西地域学校園教育ビジョン〕

自己の「よさ」を活かすとともに他者を尊重し、粘り強く頑張る子どもの育成
～協働的な学びを通して、自己肯定感をはぐくむ教育活動の推進～

4 教育課程編成の方針

- (1) 心豊かでたくましく生きる児童を育成するために、国・県・市の基本方針、児童及び地域の実態を考慮した特色ある教育課程を編成する。
- (2) 児童一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の充実を図り、交流及び共同学習の推進を目指した教育課程を編成する。
- (3) 「地域とともにある学校づくり」を推進するために、地域の教育力を生かし、交流・体験活動の充実を目指した教育課程を編成する。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

- (1) 学校運営
 - 児童一人一人のもつよさや可能性を認め伸ばし、未来を拓くたくましい人間力の育成
- (2) 学習指導
 - 思いをもとに、イメージを膨らませ、自分らしく表現する児童の育成
～ 観たい 描きたい 創りたい をふくらます授業作り ～
- (3) 児童生徒指導
 - なりたい自分を見つけ、友だちと協働して、よりよい生活を創っていける児童の育成
～ 自己肯定感を高める積極的児童指導の構築 ～
- (4) 健康（体力・保健・食・安全）
 - 生涯にわたって心身ともに健康で安全な生活を送るための資質や能力の育成
～ 主体的な判断力を身に付ける健康・安全教育の充実 ～

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標(小・中学校共通, 地域学校園共通を含む)

※「主な具体的な取組の方向性」には, A拡充 B継続 C縮小・廃止, を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は, 文頭に○印または該当箇所を下線を付ける。

第2次宮宇都市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性 評価 数値指標に対する肯定的評価の割合 上段 令和5年度 下段 令和4年度 色=評価対象 青=達成 橙=未達成 斜線=当該項目の評価なし															
1-1 (1) 確かな学力を教育の推進	A1 児童は, 他者と協力したり, 必要な情報を集めたりして考えるなど, 主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「児童は, 学習課題を解決するために, 友達と話し合ったり, 必要な情報を集めたりしながら, じっくり考え, 粘り強く学習に取り組んでいる。」 ⇒教職員肯定的回答 90%以上	①「さくらの学び(つかむ・学び合う・まとめる・ふりかえる)」のサイクルの実践を通して, 基礎・基本の定着を図り自ら学ぶ力を育てる。 ※学習がんばり週間の実施 ※地域学校園で作成した「家庭学習の手引き」の効果的活用 ※朝の学習を実施 ② 友達と話し合う場面を設けるなどして, それを参考にして主体的に学習に取り組めるようにする。 ③ 1人1台端末を活用し, 必要な情報を集めたり, 友達と考えを共有したりできるようにする。	【達成状況】 目標を達成 <table border="1" data-bbox="1054 535 1501 685"> <thead> <tr> <th></th> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R5</td> <td>89.0</td> <td>96.2</td> <td>90.4</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>※</td> <td>※</td> <td>※</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 今年度の数値目標を達成した。また, 肯定的回答が95%を超える高い割合であった。 【次年度の方針】 引き続き, つかむ・学び合う・まとめる・ふりかえると言った, 「さくらの学び」サイクルの実践を通して, 基礎・基本が確実に児童に身に付くようにする。さらに, 「まとめる」「ふりかえる」に力を入れることで, 児童の達成感を高める。これまでの実践に加え, 学年だよりやホームページで, 児童の学習の様子や成果を発信していく。		児童	教職員	保護者	地域	R5	89.0	96.2	90.4		R4	※	※	※	
	児童	教職員	保護者	地域														
R5	89.0	96.2	90.4															
R4	※	※	※															
1-2 (2) 豊かな心を育む教育の推進	A2 児童は, 思いやりの心をもっている。 【数値指標】 全体アンケート「児童は, 誰に対しても, 思いやりの心をもって優しく接している。」 ⇒教職員肯定的回答 90%以上	①道徳科の授業や交流活動, 集団での活動を通して, <u>自分を大切に</u> する心, <u>他人を思いやる</u> 心, <u>他者との共生を図る</u> 心を育成する ②縦割り班を中心とした活動を取り入れ, 自他を尊重する心を育てる。 ③「Q-U」を生かした学級経営を行う。 ④ほめほめカードの活用を通し, 児童の自尊心を育てる。	【達成状況】 目標を達成 <table border="1" data-bbox="1054 1095 1501 1245"> <thead> <tr> <th></th> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R5</td> <td>92.9</td> <td>100.0</td> <td>95.6</td> <td>100.0</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>※</td> <td>95.8</td> <td>94.3</td> <td>※</td> </tr> </tbody> </table> 昨年度より肯定的回答は上回り, 100%という高い割合であった。 【次年度の方針】 今後も思いやりをもって友達に接する児童を育成するために, 「Q-U」を生かした学級経営を行い自他を尊重する心を育てていく。		児童	教職員	保護者	地域	R5	92.9	100.0	95.6	100.0	R4	※	95.8	94.3	※
	児童	教職員	保護者	地域														
R5	92.9	100.0	95.6	100.0														
R4	※	95.8	94.3	※														
	A3 児童は, 目標に向かってあきらめずに, 粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 全体アンケート「児童は, 夢や目標に向かってあきらめずに, 粘り強く取り組んでいる。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 85%以上	①自尊感情を育み, 個性を十分に発揮させるために, 児童一人一人のよさを認め励ます教育の充実を図る。 ・褒めて伸ばす教育の推進 ・自己の成長を振り返る場の設定 ・児童相互に認め合う場の設定 ②日々の生活の中で達成感や成就感を味わうことができるよう, 個に応じたねらいや活動の設定を工夫する。 ・挑戦意欲を喚起する課題の設定 ・競い合い高め合う望ましい学級集団づくりの推進 ③体育科の検定など, 挑戦意欲を喚起する仕掛けを学校や学級で設け, 達成感を味わわせるようにし, 自尊感情を育む。	【達成状況】 目標を達成 <table border="1" data-bbox="1054 1514 1501 1664"> <thead> <tr> <th></th> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R5</td> <td>91.8</td> <td>96.2</td> <td>82.4</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>88.9</td> <td>95.8</td> <td>82.0</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> 昨年度より数値目標は, 上昇しており, 肯定的回答が90%を超える高い割合であった。 【次年度の方針】 昨年度よりもよい達成状況なので, このまま継続していく。また, 特別活動を中心に自己肯定感を高める活動等を意図的に設定する。		児童	教職員	保護者	地域	R5	91.8	96.2	82.4		R4	88.9	95.8	82.0	
	児童	教職員	保護者	地域														
R5	91.8	96.2	82.4															
R4	88.9	95.8	82.0															

1 - (3) 健康で安全な生活を実現する力を教員の推進

A 4 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。

【数値指標】
全体アンケート「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」
⇒教職員・保護者の肯定的回答 85%以上

- ①自らの自分の健康に関心を持ち、健康な生活を送ろうとする態度を養う。
・体育の授業や休み時間などに児童が自ら進んで体を動かそうとする意識の育成を図る。
- ・感染症予防を目指して児童が自ら行動できるように指導する。
- ・食育だよりや給食時の声掛けなどで、食の大切さを啓発していく。
- ②安全な登下校や交通安全について発達の段階に応じ繰り返し指導する。
- ③避難訓練を実施して児童の危機管理意識を高める。
・災害や不審者を想定した避難訓練を実施し、児童自らが危険を予測し回避できる能力の育成を図る。
- ③校舎外の安全な生活(遊具の安全な使い方等)について、にこにこタイムや日々の指導や教科・学級活動の時間で継続して指導する。
- ④西生涯学習センターや桜コミセンと連携しながら危機管理マニュアルの見直しを図る。

【達成状況】 目標を達成

	児童	教職員	保護者	地域
R5	92.2	100.0	89.5	100.0
R4	※	100.0	95.3	※

昨年度に引き続き、今年度も数値目標を達成した。だが、昨年度よりも保護者の肯定的回答割合が約6%下回った。

【次年度の方針】

今年度児童会を中心にして、運動や健康の取り組みを奨励した。また、地震・火事・竜巻・不審者を想定した避難訓練を行い児童の安全への意識の向上に努めた。来年度も引き続きこれらの取り組みを継続し、安全な登下校や交通安全・校内安全について発達の段階に応じ、繰り返し指導する。また、児童が健康や安全に気を付けて生活できるよう、学校と家庭とで連携をしていく。

1 - (4) 将来への希望と協働する力を育むの推進

A 5 児童は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。

【数値指標】
全体アンケート「児童は、互いの良さを生かしながら、進んで意見を発表したり、協力したりして、集団での課題を解決している。」
⇒児童・教職員の肯定的回答 85%以上

- ①望ましい勤労観・職業観の形成を図るために「宮・未来キャリア教育」の充実を図る。
・年間指導計画に基づいた意図的・計画的な指導の展開
・キャリア形成に係る自己評価と記録蓄積の工夫
- ②地域各団体主催の行事等に関する情報を積極的に提供し、地域活動への児童の参加促進を図る。
・各団体との連携の強化による地域行事情報の収集
・ホームページ等を活用した情報の積極的な発信
- ③キャリアパスポートを活用し、以前の自分と比較させ、成長している点を実感できるような場の設定を図る。
- ④ほめほめ賞や清掃活動・縦割り班活動の評価のフィードバックにより、一人一人が自分のよさに気付けるようにする。

【達成状況】 目標を達成

	児童	教職員	保護者	地域
R5	90.2	100.0		
R4	※	※		

今年度の数値目標を達成した。また、肯定的回答が90%を超える高い割合であった。

【次年度の方針】

今年度もほめほめ賞や友達のよさを伝え合う活動が効果的だったので、次年度も継続し、互いの個性を認め合う雰囲気作りにも努める。また、自分のよさを実感できるような体験等を多く取り入れていく。

2 - (1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教員の推進

A 6 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。

【数値指標】
全体アンケート「児童は、外国語活動の授業や ALT との交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている。」
⇒児童・教職員の肯定的回答 85%以上

- ①英語によるやりとりを中心とした授業実践の推進
・教材研究の工夫
・ALT との連携の工夫
・学習形態の工夫
- ②外国語活動に向けた環境整備の推進
・教材等、備品の管理の工夫
・校内掲示の工夫
- ③児童が目的意識をもって英語で話したいと思えるような教材の工夫をする。
- ④これまでの実践に加え、1人1台端末を活用する。

【達成状況】 目標を未達成

	児童	教職員	保護者	地域
R5	78.8	88.5		
R4	※	91.7		

今年度は、教職員の肯定的回答の数値目標は上回ったが、児童の肯定的回答が6.2%下回った。

【次年度の方針】

児童が目的意識をもち英語で話したいと思えるような教材や展開を工夫する。また、学年の実態に合わせた指導の工夫について、ALT との綿密な打ち合わせを継続していく。また、より一層1人1台端末の活用等の研修を行う。

	<p>A7 児童は、宇都宮の良さを知っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート 「児童、宇都宮の良さを知っている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答80%以上</p>	<p>①児童が郷土宇都宮に対する理解を深められるよう、発達の段階に応じて郷土に関する学習を推進する。 ・主に社会科、総合的な学習の時間(宇都宮学)、道徳と関連付け、ICT機器を用いた調べ学習を充実させ、積極的に保護者に情報を発信する。 ・特別活動(学校行事等)における体験的な学習の場の設定</p> <p>②校外学習等で、宇都宮の良さに触れる機会を設定する。</p>	<p>【達成状況】 目標を達成</p> <table border="1" data-bbox="1058 147 1503 297"> <thead> <tr> <th></th> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R5</td> <td>83.1</td> <td>92.3</td> <td>71.3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>82.7</td> <td>83.3</td> <td>65.6</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>児童・教職員ともに、昨年度の数値を上回り、数値目標を達成した。</p> <p>【次年度の方針】 主に社会科、総合的な学習の時間(宇都宮学)、道徳科、食育と関連付け、ICT機器を用いた調べ学習を充実させ、積極的に保護者に情報を発信する。また、校外学習等で、宇都宮の良さに触れる機会を設定する。</p>		児童	教職員	保護者	地域	R5	83.1	92.3	71.3		R4	82.7	83.3	65.6	
	児童	教職員	保護者	地域														
R5	83.1	92.3	71.3															
R4	82.7	83.3	65.6															
<p>2 - (2) 情報社会と科学技術の進展に対応した教育の推進</p>	<p>A8 児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「児童は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答85%以上</p>	<p>①情報活用能力の育成を図るために、体系的な情報教育を推進する。 ・意図的・計画的な「情報モラル教育」の実践 ・授業におけるICT機器の効果的な活用 ・プログラミング教育の実践</p> <p>②図書資料を有効に活用した学びを充実させるために、学校図書館の整備を推進する。 ・学習・情報センターとしての図書館の利用指導の充実 ・学習ニーズの把握に基づいた関連図書情報の提供 ・市立図書館と連携した授業実践</p> <p>③これまでの実践に加え、1人1台端末を活用した課題を積極的に提示し、学びの意欲喚起や家庭学習の定着等を目指す。</p>	<p>【達成状況】 目標を達成</p> <table border="1" data-bbox="1058 607 1503 757"> <thead> <tr> <th></th> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R5</td> <td>89.0</td> <td>100.0</td> <td>85.7</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>※</td> <td>100.0</td> <td>91.0</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>児童・教職員ともに、肯定的回答が数値目標を上回り、目標を達成した。</p> <p>【次年度の方針】 図書資料を活用した学びが充実してきている。また、タブレット端末をはじめとしたICT機器の活用によって学びを深めたり意見を交流したりすることができた。次年度は、情報モラル教育の充実を図りながら、引き続き情報教育を推進する。</p>		児童	教職員	保護者	地域	R5	89.0	100.0	85.7		R4	※	100.0	91.0	
	児童	教職員	保護者	地域														
R5	89.0	100.0	85.7															
R4	※	100.0	91.0															
<p>2 - (3) 持続可能な社会の実現に向けた手を育む教育の推進</p>	<p>A9 児童は、「持続可能な社会」について、関心を持っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「児童は、持続可能な社会について、関心を持っている。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答80%以上</p>	<p>①教職員が「持続可能な開発のための教育」(ESD)について理解を深め、児童の学習内容に関連付け、日々の生活の中で実施できるように指導を推進する。</p> <p>②「持続可能な開発のための教育(ESD)」を推進するために、新たなカリキュラムの開発・研究に努める。 ・社会科、生活科、学活、総合的な学習の時間における活動の見直しを行う。</p> <p>③児童の実態に応じた具体的な活動内容を検討する。</p>	<p>【達成状況】 目標を未達成</p> <table border="1" data-bbox="1058 1200 1503 1350"> <thead> <tr> <th></th> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R5</td> <td>88.6</td> <td>73.1</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>※</td> <td>91.7</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>今年度は、児童の肯定的回答は上回ったが、教職員の肯定的回答は数値目標を6.9%下回った。また、昨年度より教職員の肯定的回答が18.6%下回った。</p> <p>【次年度の方針】 牛乳パックリサイクルなどによって、児童の「持続可能な社会」についての意識は高まってきているが、教職員の知識・理解を高めるための工夫を行う。</p>		児童	教職員	保護者	地域	R5	88.6	73.1			R4	※	91.7		
	児童	教職員	保護者	地域														
R5	88.6	73.1																
R4	※	91.7																
<p>3 - (1) インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進</p>	<p>A10 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答90%以上</p>	<p>①児童一人一人の教育的ニーズを十分に把握して児童理解に努めるとともに、児童が安心して学校生活が送れるよう保護者との連携や組織を活用した指導の充実を図る。</p> <p>②教育相談や保護者との懇談を通じた児童理解の推進</p> <p>③校内支援委員会やケース会議を活用した組織的指導の充実</p> <p>④児童養護施設「きずな」との連携</p> <p>⑤困り感を抱えた児童が安心して学校生活が送れるよう、通常の学級と特別支援学級との連携や、かがやきルームにおける指導の充実を図る。</p>	<p>【達成状況】 目標を達成</p> <table border="1" data-bbox="1058 1682 1503 1832"> <thead> <tr> <th></th> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R5</td> <td></td> <td>100.0</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td></td> <td>※</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>教職員の肯定的回答が100%であり、数値目標も大きく上回った。</p> <p>【次年度の方針】 引き続き、全職員で適切な支援ができるよう児童の実態の把握や効果的な指導の在り方について図る。</p>		児童	教職員	保護者	地域	R5		100.0			R4		※		
	児童	教職員	保護者	地域														
R5		100.0																
R4		※																

3 - (2) いじめ・不登校対策の実

A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。

【数値指標】
全体アンケート「学校は、いじめ対策に熱心に取り組んでいる。」
⇒児童・保護者の肯定的回答 85%以上

- ①いじめゼロ強調月間や人権週間の取組を推進し人権を尊重する態度を育成する。また取組を公開する。
- ②道徳科の時間の指導の充実と実践及び公開する。
- ③地域・学校園との連携した取組を行う。
- ④いじめ防止アンケートや教育相談によるいじめの早期発見と解消を目指す。
- ⑤いじめゼロ強調月間や人権週間等の取組や各学年でのいじめに対する取組をホームページや学年だよりで、保護者に分かるように積極的に発信する。

【達成状況】 **目標を達成**

	児童	教職員	保護者	地域
R5	97.6	100.0	90.9	100.0
R4	97.8	100.0	83.5	※

児童・教職員の肯定的回答がともに90%以上であり、数値目標を上回り目標を達成した。また、保護者の肯定的回答は昨年度より7.4%上回った。

【次年度の方針】
現状を維持しながら、いじめゼロ集会以外の普段の取組を積極的に保護者へ情報公開するようにしていく。職員間でもいじめゼロの取組について共通理解し実践していく。

3 - (3) 外国人児童生徒等への適応支援の充実

A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。

【数値指標】
全体アンケート「先生方は、不登校を生まないよう、一人一人の児童を大切に、児童がともに認め励まし合う学級経営を行っている。」
⇒児童・保護者の肯定的回答 90%以上

- ①学年・学級経営計画に基づいた意図的・計画的な指導を通して、学級活動の充実を図り、明るく活力に満ちた学級風土づくりを推進する。
・教育相談・Q-U 検査の効果的な活用
・教師と児童の協働・共遊の推進
- ②児童がともに認め励まし合う学級づくりを行っていく。また、教職員間での情報共有を行い、組織的・計画的支援に努める。
- ③欠席状況共有シートや日々の様子の記録等を活用した情報共有を推進し、共通理解に基づいた組織的計画的な支援を推進する。
- ④別室登校支援等、児童の実態に応じた支援策の工夫を図る。

【達成状況】 **目標を達成**

	児童	教職員	保護者	地域
R5	97.3	100.0	94.1	
R4	95.9	100.0	92.0	

児童・教職員の肯定的回答がともに90%以上であり、数値目標を上回り目標を達成した。

【次年度の方針】
欠席している児童への連絡やほめほめカードなどの取組を継続しながら、児童に自信を持たせるような学級経営を行っていく。

3 - (4) 多様な教育的ニーズへの対応の強化

A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。

【数値指標】
全体アンケート「教職員は、児童の悩みに寄り添い、相談に乗ったり、問題の解決に努めたりして、児童生徒が明るくいいきと学校生活を送れるようにしている。」
⇒児童・保護者の肯定的回答 90%以上

- ①「認め、励まし、支え合う」学年学級経営の充実に取り組む。
- ②全職員が共通理解・連携のもと児童指導にあたり、自己存在感のある学校づくりに取り組む。
- ③授業や学校行事で、児童が主体的に活動できる場を意図的に設定し、達成感をもたせ、意欲的に行動できるようにする。

【達成状況】 **目標を達成**

	児童	教職員	保護者	地域
R5	98.0	100.0	94.2	100.0
R4	※	※	※	※

児童・教職員の肯定的回答がともに90%以上であり、数値目標を上回り目標を達成した。

【次年度の方針】
児童会活動や学校行事などにおいて児童が主体的に活動できるよう計画を工夫し、実施する。

4 - (1) 教職員の質・能力の向上

A14 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。

【数値指標】
全体アンケート「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」
⇒児童の肯定的回答 90%以上

- ①特別支援学級との連携を図る。
- ②「さくらの学び」(つかむ・学び合う・まとめる・ふりかえる)を活用した学びのスタイルの確立と活用に努める。
- ③学力テストやアンケート結果の分析と効果的な活用を行う。
- ④少人数指導を通してのきめ細やかな指導に努める。
- ⑤ホームページや学年便りなどで、授業の様子を載せて保護者へ積極的に発信をする。

【達成状況】 **目標を達成**

	児童	教職員	保護者	地域
R5	99.2	100.0	90.6	
R4	97.8	100.0	89.9	

昨年度に続き、今年度も数値目標を大きく上回り目標達成した。

【次年度の方針】
引き続き、学びのスタイルの確立を目指したり、ホームページや学年便りなどで、授業の様子を載せて保護者へ積極的に発信をしたりする。

<p>4 - (2) チーム力の向上</p>	<p>A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答 90%以上</p>	<p>①専門スタッフを効果的に活用するために、学校内外のコミュニケーション環境の「チーム桜」を意識した活動を継続することに努める。 ・総合的な連絡調整の実施 ・各業務担当教職員との綿密な打ち合わせの実施 ・各スタッフによる関係職員への積極的な情報提供の推進</p> <p>②職員会議や打ち合わせの機会を活用し、専門スタッフとの情報交換を密にする。</p>	<p>【達成状況】 目標を達成</p> <table border="1" data-bbox="1054 143 1501 293"> <thead> <tr> <th></th> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R5</td> <td>/</td> <td>100.0</td> <td>/</td> <td>/</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>/</td> <td>95.8</td> <td>/</td> <td>/</td> </tr> </tbody> </table> <p>B 教職員の肯定的回答が100%となり、数値目標も大きく上回った。 【次年度の方針】 引き続き、連絡を密にし、チーム桜を意識し、協力して業務に取り組む。</p>		児童	教職員	保護者	地域	R5	/	100.0	/	/	R4	/	95.8	/	/
	児童	教職員	保護者	地域														
R5	/	100.0	/	/														
R4	/	95.8	/	/														
<p>4 - (3) 学校における働き方改革の推進</p>	<p>A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「私は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>①勤務時間や業務内容の違いを相互に理解しながら協働体制を構築する。</p> <p>②学校スタッフの業務内容を整理したり、行事や文書処理などにおいて具体的な業務の削減をしたりする。</p> <p>③多様な専門性を有する学校スタッフと連携し、効率的・効果的な教育活動の推進を図る。</p> <p>④職員自らがライフワークバランスを意識して勤務することができるよう、互いに声を掛け合う。</p> <p>⑤リフレッシュデーの持ち方や方法について検討する。</p>	<p>【達成状況】 目標を達成</p> <table border="1" data-bbox="1054 517 1501 667"> <thead> <tr> <th></th> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R5</td> <td>/</td> <td>92.3</td> <td>/</td> <td>/</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>/</td> <td>※</td> <td>/</td> <td>/</td> </tr> </tbody> </table> <p>B 教職員の肯定的回答が90%を超え、数値目標を大きく上回った。 【次年度の方針】 簡略化等により業務の効率化が図られた。次年度も業務改善に努めるとともに、多様な専門性を有する学校スタッフと連携し、教育活動の効率化を図る。</p>		児童	教職員	保護者	地域	R5	/	92.3	/	/	R4	/	※	/	/
	児童	教職員	保護者	地域														
R5	/	92.3	/	/														
R4	/	※	/	/														
<p>5 - (1) 全市的な学校運営・教育活動の充実</p>	<p>A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「学校は、小学生や中学生が交流する活動を行っている。」 ⇒児童・保護者の肯定的回答 80%以上</p>	<p>①保護者や地域住民に対して「各種たより」やホームページで、教育活動の情報を発信・提供する。</p> <p>②6学年の学年だよりでは、乗り入れ授業の様子や児童の感想などを載せ、保護者への啓発を図る。</p> <p>③小中合同のあいさつ運動や中学校訪問の機会を通して、児童生徒相互の交流を推進する。</p> <p>④食育だよりや図書館だよりなど、地域学校園で行っている取り組みについて、より保護者に理解が得られるよう、紙面の構成を工夫する。</p>	<p>【達成状況】 目標を達成</p> <table border="1" data-bbox="1054 983 1501 1133"> <thead> <tr> <th></th> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R5</td> <td>86.0</td> <td>96.2</td> <td>86.8</td> <td>100.0</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>※</td> <td>※</td> <td>72.2</td> <td>※</td> </tr> </tbody> </table> <p>B 数値目標を上回り目標達成した。保護者の肯定的回答は、昨年度より14.6%上回った。 【次年度の方針】 引き続き、ホームページや各種便りで発信することで、小中一貫の教育活動の情報を提供し、保護者や地域の理解を深める。また、乗り入れ授業や合同あいさつ運動・中学校訪問などで、中学校との交流を深める。さらに、地域学校園内の学校との連携を強くし、取組の実施時期や、その方法について検討していく。</p>		児童	教職員	保護者	地域	R5	86.0	96.2	86.8	100.0	R4	※	※	72.2	※
	児童	教職員	保護者	地域														
R5	86.0	96.2	86.8	100.0														
R4	※	※	72.2	※														
<p>5 - (2) 主体性と独自性を生かした学校経営の推進</p> <p>5 - (3) 地域と連携・協働した学校づくりの推進</p>	<p>A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「私は、地域や企業の方々と一緒に活動することで学習が充実し、楽しい。」 ⇒児童の肯定的回答 85%以上</p>	<p>①学校の公開や情報の積極的な発信・提供を行い、家庭・地域・企業等との連携・協力を推進する。 ・オープンスクール等による学校公開の推進 ・学校便り、学年便り、保健便り、食育便り、図書館便り等の工夫と定期的発行</p> <p>②地域団体・地域人材の積極的な活用を通して、地域と共に歩む魅力ある学校づくりを推進する。 ・生活科や総合的な学習の時間における体験活動を中心とした交流活動の推進 ・新たな地域教材開発の推進</p> <p>③外部連携を例年通り計画し、社会状況に応じて臨機応変に実施・変更を行う。</p>	<p>【達成状況】 目標を達成</p> <table border="1" data-bbox="1054 1559 1501 1709"> <thead> <tr> <th></th> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R5</td> <td>89.4</td> <td>100.0</td> <td>90.7</td> <td>100.0</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>91.1</td> <td>95.8</td> <td>85.5</td> <td>※</td> </tr> </tbody> </table> <p>B 昨年度に引き続き、今年度も数値目標を達成した。しかし、昨年度の肯定的回答より下回った。 【次年度の方針】 引き続き、企業や博物館による出前授業や校外学習等、様々な外部機関と連携した教育活動を積極的に行っていく。</p>		児童	教職員	保護者	地域	R5	89.4	100.0	90.7	100.0	R4	91.1	95.8	85.5	※
	児童	教職員	保護者	地域														
R5	89.4	100.0	90.7	100.0														
R4	91.1	95.8	85.5	※														

6 - (1) 安全で快適な学校施設整備の推進

A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。

【数値指標】

全体アンケート「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」

⇒保護者・地域住民の肯定的回答 90%以上

- ①児童と教師の協働による日常の清掃活動等を充実させ、環境の美化に努める。
 - ・縦割り班清掃活動の充実と清掃強化週間の有効活用
 - ・児童会活動や奉仕活動の充実
 - ・地域協議会と連携した緑化活動の推進
- ②安全点検結果に基づき、修繕補修を迅速に行い、安全な学習環境づくりを推進する。

【達成状況】 目標を未達成

	児童	教職員	保護者	地域
R5	/	100.0	94.8	88.9
R4	/	100.0	93.8	※

今年度は、保護者の肯定的回答は上回ったが、地域住民の肯定的回答は数値目標を僅かに下回った。

【次年度の方針】

環境委員会などと連携し、校内環境の美化に努める。また、地域協議会と連携した環境活動の推進を図る。

B

6 - (2) 学校のデジタル化推進

A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができています。

【数値指標】

全体アンケート「私は、授業（授業準備を含む）や業務に、デジタル※を積極的に活用している。」
※デジタル・・・一人一台端末、学校用グループウェア、校務支援システム、デジタル連絡ツールなど

⇒教職員の肯定的回答 85%以上

- ①情報教育を推進するために、ICT機器の利用環境整備に努める。
 - ・1人1台端末の活用
 - ・ICT機器の集中管理の徹底
- ②ICT支援員との連携を充実させる。
- ③デジタル機器活用の研修を行う。

【達成状況】 目標を達成

	児童	教職員	保護者	地域
R5	/	100.0	/	/
R4	/	※	/	/

教職員の肯定的回答が100%となり、数値目標を大きく上回った。

【次年度の方針】

引き続き、ICT機器の利用環境整備に努める。また、ICT支援員との更なる連携を図るよう環境を整える。

B

小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等

B1 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。

【数値指標】

全体アンケート「児童は時と場に応じたあいさつをしている」
⇒教職員・保護者肯定的回答 85%以上

- ①児童会縦割り班のあいさつ運動を定期的に展開し、和やかな人間関係・雰囲気を作る。
- ②あいさつ当番制度やほめほめ（あいさつ）カードの活用により、習慣化を図る。
- ③あいさつ運動を継続し、活気ある学校の雰囲気をつくっていくとともに、学年に応じた挨拶の仕方について指導する。

【達成状況】 目標を達成

	児童	教職員	保護者	地域
R5	94.9	96.2	87.9	100.0
R4	※	95.8	87.4	90.0

数値目標を上回り目標達成した。教職員・保護者の肯定的回答は、昨年度より僅かに上回った。

【次年度の方針】

引き続き、児童主体のあいさつ運動やほめほめカードの活用をし、より一層定着を図る。
家庭や地域においても、あいさつができるよう、指導していく。

A

B2 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。

【数値指標】

全体アンケート「児童は、きまりやマナーを守って生活している。」
⇒教職員肯定的回答 90%以上

- ①適切な助言・賞賛・励ましによる基本的な生活習慣の確立と徹底を図る。
- ②「桜のよい子」に基づいた月ごとの具体的な生活目標を設定し、基本的な生活習慣を身に付けさせる。
- ③朝のあいさつ運動を学校全体で行い積極的に参加するよう声掛けをする。

【達成状況】 目標を達成

	児童	教職員	保護者	地域
R5	94.9	100.0	92.3	100.0
R4	※	100.0	93.8	※

数値目標は達成しているが、昨年度と比べて、保護者の肯定的回答の割合が減少している。

【次年度の方針】

引き続き、学校全体で月目標を意識しながら、学校生活を送ることができるようにするとともに、道徳科や学級活動などで規範意識が高まるような授業を行う。

A

<p>B3 児童は、互いの良さを認め、協力し合って生活している。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「児童は、互いの良さを認め、協力し合って生活している。」 ⇒児童肯定的回答 90%以上</p>	<p>①共に支えあう望ましい学級集団づくりを目指す活動を継続していく。 ・縦割り班活動（清掃・共遊・さくらウオークラリー等）の充実 ・特別支援学級と通常の学級との交流 ・異学年交流（クラブ活動、委員会）</p> <p>②自他の違いを理解し、尊重し合い支えあう望ましい学級集団づくりを目指す活動の場を設定する。 ・よさを見つけ認め合う活動「ほめほめカード」「さくらカード」 ・一人一人の良さを認め合えるような学年・学級経営</p>	<p>B</p>	<p>【達成状況】 目標を達成</p> <table border="1" data-bbox="1054 147 1501 297"> <thead> <tr> <th></th> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R5</td> <td>93.7</td> <td>100.0</td> <td>92.0</td> <td>100.0</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>95.2</td> <td>100.0</td> <td>91.4</td> <td>100.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>児童の肯定的回答は90%を超え、数値目標を達成したが、昨年度と比べて、肯定的回答の割合が減少している。</p> <p>【次年度の方針】 共に支え合う望ましい学級集団作りに継続して取り組んでいく。また、引き続き、「ほめほめカード」の取組を推進するとともに、縦割り班活動での異学年交流を進め、互いに認め合う雰囲気醸成に努める。</p>		児童	教職員	保護者	地域	R5	93.7	100.0	92.0	100.0	R4	95.2	100.0	91.4	100.0
	児童	教職員	保護者	地域														
R5	93.7	100.0	92.0	100.0														
R4	95.2	100.0	91.4	100.0														
<p>B4 学校は、頑張る学校プロジェクトとして、創意工夫ある教育活動を実施し、活気あふれる特色ある学校づくりに努めている。</p> <p>【数値指標】 全体アンケート「学校は、頑張る学校プロジェクトとして、創意工夫ある教育活動を実施し、活気あふれる特色ある学校づくりに努めている。」 ⇒保護者肯定的回答 85%以上</p>	<p>①「学校だより」等で保護者等に交付金を活用した事業目的や内容を周知する。</p> <p>②頑張る学校プロジェクトの事業後、実施内容を便りやHP等で発信する。</p> <p>③外部人材と連携を図り教育活動を推進していく。</p>	<p>B</p>	<p>【達成状況】 目標を達成</p> <table border="1" data-bbox="1054 678 1501 828"> <thead> <tr> <th></th> <th>児童</th> <th>教職員</th> <th>保護者</th> <th>地域</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>R5</td> <td></td> <td>100.0</td> <td>92.4</td> <td>100.0</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td></td> <td>※</td> <td>※</td> <td>※</td> </tr> </tbody> </table> <p>保護者の肯定的回答が90%以上となり、数値目標を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 HP やさくら連絡網でのメール配信を活用したことで、保護者や地域の学校の教育活動についての理解が高まった。次年度も継続して積極的に情報発信をしていく。</p>		児童	教職員	保護者	地域	R5		100.0	92.4	100.0	R4		※	※	※
	児童	教職員	保護者	地域														
R5		100.0	92.4	100.0														
R4		※	※	※														

【総合的な評価】

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

（学校運営）

- ・「児童と向き合う時間の確保と、活力ある学校づくり」を目指して、校務分掌の適切な配置と、業務の効率化に努めたことにより、児童と向き合う時間を確保することができてきた。また、多様な専門性を有する学校スタッフと連携出来たことも大きな要因であった。
- ・特別活動の時間を中心に、児童主体の活動を「任せ、やり遂げさせる」姿勢で支援したことが活気ある学校づくりにつながった。また、縦割り班での活動や「ほめほめカード」の積極的な導入、各活動の振り返りを充実させることにより、一人一人の自己肯定感を高めたり、児童が互いに認め合ったりする雰囲気がつくられ、活力ある学校づくりにつながった。
- ・「学校・家庭・地域社会との連携、地域とともにある学校」として、今年度も保護者の学校行事への参加や地域の教育力を活用した特色ある教育活動を展開できた。また、学校の教育活動については、学校だよりを始め各種便りやHP等で積極的に情報提供し、保護者や地域社会の理解を深めることができた。
- ・今後も引き続き、地域の教育力と連携し、全職員「チーム桜」で持続可能な勤務環境づくりや児童主体の活気ある学校づくりに努めていく。

（学習指導部会）

- ・教科の特性や児童の理解の程度に応じた学習形態や指導法の工夫に努めるとともに、基礎的・基本的な学力の確実な定着を図ってきた。また、個に応じた支援、指導、評価を行い、児童の学力向上に努めてきた。
- ・校外学習や出前授業、体験学習を推進したことにより、宇都宮学についての理解が高まった。また、「子どもたちの？をふくらますこと」「本物から学ぶこと」を大切に学習を取り入れることで、学ぶ楽しさを実感出来た。
- ・児童が意欲をもって取り組める学習課題を設定し、試したり、考えを表したり、思いを伝えあったりするように学習活動を工夫し、学びを深める授業を展開することができた。できたことの達成感について、教師と児童の肯定的割合に差があるので、「つかむ、学び合う、まとめる、ふりかえる」の「さくらの学び」の中で、「まとめる・ふりかえる」を重点的に扱っていくことが必要である。

（児童指導部会）

- ・「心豊かでたくましく生きる児童の育成」を目指して、「桜のよい子」に基づいた指導や児童一人一人の良さを認め励ます活動を設定したことにより、きまりやマナーを守って学校生活を送ることや目標に向かい粘り強く取り組む気持ちが高まってきた。
- 陽西学校園のあいさつ運動が通して、あいさつへの意識が高まった。
- ・特別な支援や配慮を要する児童について、今年度も全教職員で共通理解し連携を図りながら対応している成果が表れている。今後も週1回打合わせ後の児童指導対策会議での共有・連携を行って実態に応じた対応を行うと共に、特別支援教

育の視点を大切にしていきたい。

(健康安全部会)

- ・今年度も、引き渡し訓練では、保護者と共に訓練を実施することができた。また地震・火災を想定した避難訓練では、消防署の方をお招きして訓練を実施することができた。更に、不審者対応の避難訓練では、より実践に近い訓練とするために実施方法を工夫したり、ICTを活用したりしたことにより、命を守る大切さを実感できる訓練となった。
- ・児童は健康に注意しながら、運動集会や運動がんばり週間を通して運動に進んで取り組むことができた。
- ・今年度も、食育や健康教育については、栄養士や養護教諭を中心にICT機器を取り入れながら効果的に実施することができた。

7 学校関係者評価

- ・校外においても、元気な挨拶をしてくれるので嬉しい。
- ・いろいろな体験は、主体性をもつ社会人となるし自己肯定感を高めることにもつながるので、引き続き児童が自分の強みを伸ばせるような活動をお願いしたい。
- ・安心安全な学校になるために、地域も協力していく。
- ・学校で褒めてもらっているので、「家庭でもどうしたらいいか」考え、自己肯定感を高めるようにしていく必要がある。
- ・子どもたちは挨拶ができていますので、保護者や地域も挨拶の輪を広げたい。
- ・「宇都宮の良さ」は、当たり前前に思っていることが実は魅力である。児童や保護者にも伝わるといいのではないか。
- ・地域と良く連携して教育活動を行っている。
- ・「自分たちの学校をみんなで創る」という取組をたくさんの掲示物から強く感じられ、子どもたちのやる気を感じた。
- ・将来の夢を描くきっかけづくりを増やせるとよい。実際に仕事で活躍している大人の話の聞いたり実演を見せてもらったりとするとよいのではないかと。
- ・学校としての活動や子どもたちの様子が分かるようにHPの更新頻度を多くした方がよい。
- ・門扉の修理や外トイレの様式化、校内の安全運転への啓発を行うとよい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- 今年度に引き続き行った取組に改善・工夫を加え次年度へつなげる。
- ・児童の自己肯定感や自己有用感が高まる教育活動の充実に努める。
 - ①一人一人の個性や能力を把握し、基礎・基本の確実な定着及び「分かる授業」の展開を図る。
 - ②「つかむ、学び合う、まとめる、ふりかえる」の「さくらの学び」を基に、児童が意欲をもって取り組める授業を展開する。
 - ③児童がもっている力を発揮できるように、一人一人に寄り添いながら温かくきめ細かな指導を行う。また、できる喜びを実感できるよう称賛の言葉を掛けたり、児童とともに達成感や成就感を共有したりし、児童のよりよい成長を支える関りに努める。
 - ④特別活動を通し、「学校行事」「児童会活動」「学級活動」等、児童一人一人が活躍できる場や「縦割り班活動」等、異学年によるふれあいの機会を設定して、自己肯定感や自己有用感を高める教育活動を行う。
- ・地域と家庭、学校が連携を図りながら、学校教育への理解を深めていただき、学校運営の充実に努める。
 - ①今後も学校教育活動の理解や協力をいただけるよう教育活動・授業の公開や各種便りやHP等による情報発信を行う。
 - ②「さくら地区クリーン活動」等地域の教育力を生かした交流活動を取り入れる教育活動の実践を行う。
 - ③地域の人材や教育力を活かし、児童に「将来の夢」を描くきっかけをもたせ未来への希望へとつなげられるような活動を実践していく。
 - ④地域協議会の組織を活用し、地域の人材を積極的に教育活動に取り込み、地域の教育力を生かした学校づくりを推進する。
 - ⑤社会科や総合的な学習の時間を中心に、宇都宮の良さを実感できるような授業を行うとともに、校外学習等で宇都宮の良さに触れる機会を設定する。
- ・校外外でのあいさつ運動の習慣化と地域の方々との交流の充実に努める。
 - ①気持ちの良い挨拶を職員自ら率先励行する姿勢をもち、児童の見本となるようにする。
 - ②児童会を中心にあいさつ運動を行う等、今年度の取組を維持しながら、「桜のよい子」「ほめほめカード」等を活用し基本的生活習の指導を徹底するとともに、気持ちの良い挨拶をした児童を称賛していく。
 - ③社会科・生活科・総合的な学習の時間や児童集会「感謝の会」の活動や交流を通して、自分は地域の一員であることや地域の方々に支えていただいていることを実感できるようにする。
 - ④まちづくり協議会との連携を図り、学校と地域で挨拶の輪を広げるようにする。
- 「小中一貫」「地域学校園」等の実践を積極的に情報発信に努める。
 - ①小中で連携して行っている「あいさつ運動」や地域学校園で行っている教育活動の取組や実践を学校だよりや学年だより、HP等で発信する。
 - ②今後も地域学校園で連携を図ったり、全職員で「小中9年間の学びを支える」という意識を共有したりしながら、児童の資質・能力を高めていく。
- ・安心安全な学校づくりを目指し、安全点検の充実と学校業務機動班との連携に努める。また、安全安心な学校づくりのための取組を保護者や地域に発信する。